

HP Operations Orchestration 10.x

Windows および Linux オペレーティングシステム

OO Base コンテンツパックバージョン1.2.1

リリースノート

ドキュメントリリース日:2014年9月
ソフトウェアリリース日:2014年9月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™ は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ) のインタフェースが含まれています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行うことができます。<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログインページの [**New users - please register**] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<http://www.hp.com/go/hpsupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやTILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

目次

概要	5
コンテンツパックの統合	5
Base コンテンツパックのデプロイ	7
修正された不具合	8
既知の問題	13
制限	19

概要

本ドキュメントでは、HP Operations Orchestration Base コンテンツパック 1.2.1 リリースの概要について説明します。マニュアルやオンラインヘルプに記載されていない重要な情報が含まれています。

このリリースでは、次の言語がサポートされます。

- en - 英語
- fr - フランス語
- de - ドイツ語
- ja - 日本語
- es - スペイン語
- zh_CN - 簡体字中国語

Base コンテンツパック 1.2.1 は累積的なコンテンツパックです。

コンテンツパックの統合

次の表に、Base コンテンツパックがサポートする統合の一覧を示します。

統合名	バージョン
Active Directory	Windows 2000、Windows 2003、Windows 2008、Windows 2008 R2、Windows 2012、Windows 2012 R2
AIX	AIX 5.3
FreeBSD	6.3、7.0
JDBC	
電子メール	POP3、IMAP
Excel	1997、2000、2003、2007、2010
ファイルシステム	
HP HP/UX	B.11.31

統合名	バージョン
SOAP	
JVM	5.0、6.0
MS Cluster	Windows 2003、Windows 2008、Windows 2008 R2
ネットワーク	
Red Hat	ES 3、AS 3、ES 4、AS 4、ES 5、ES 6.2
Perl	
PowerShell	1.0、2.0、3.0、4.0
印刷	
リモートコマンド実行	
Sharepoint	2003、2007
SNMP	1、2、3
Solaris	10
SUSE Linux	openSUSE 10.0、SUSE Enterprise Server 10 SP1、openSUSE 11.0
Windows	2003、XP、2008、2008 R2、2012、2012 R2
WMI	1.x
WS-Management	1.0.0

注: 次の統合には基本的なオペレーションだけが含まれます。高度な機能については、対応する専用コンテンツパックを参照してください。

統合名	専用コンテンツパック
JDBC	Databases
FreeBSD、HP-UX、Red Hat、Linux、Solaris、SUSE Linux、Windows	Operating Systems、Infrastructure Orchestration
電子メール	Business Applications

Base コンテンツパックのデプロイ

00 プラットフォームバージョン 10.00 以降は、Base コンテンツパック 1.2.1 をサポートします。ただし、Base コンテンツパック 1.2.1 は、既存の 00 プラットフォームバージョン 10.10 またはそれ以降にデプロイすることを推奨します。

コンテンツパックのデプロイの詳細については、『Studio オーサリングガイド』の「コンテンツパックのプロジェクトへのインポート」と『Central ユーザーガイド』の「コンテンツパックのデプロイ」を参照してください。

注: コンテンツパックのアンインストール/ロールバックの方法については、『HP 00 Central ユーザーガイド』の「前回のデプロイメントへのロールバック」を参照してください。

修正された不具合

修正された不具合の参照番号は、ALM グローバルID 番号 (QCCR) です。

修正された不具合の詳細については、「HP ソフトウェアサポートオンライン」を参照するか、HP サポート担当者まで直接お問い合わせください。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C1125	「SQL Command」オペレーションは、EXEC コマンドが入力として指定されている場合、outputText 結果に値を返さない	「/Library/Operations/Databases/JDBC/」の下にある「 SQL Command 」オペレーションは、コマンド入力として "EXEC" コマンドが指定されている場合、"outputText" 結果に正しい値を返すようになりました。
QCCR8C1706	WMI セキュリティ: 「WMI Query」フローの pktPrivacy 入力が表示されない	「Operations/WMI/.NET」の下の「 WMI Query 」フローの pktPrivacy 入力が表示されるようになり、ドキュメントのフローの説明に記述されています。
QCCR8C22332	「Cross Platform/Create Zip」で作成された ZIP アーカイブ内のマルチバイトのファイル名とフォルダー名が展開後に化ける	「/Library/Operation/FileSystem/Cross Platform」の下の「 Create Zip 」オペレーションの説明が更新され、非英語環境でのこのオペレーションの機能をより正しく表現するようになりました。
QCCR8C22663	RAS が利用できない場合、「Read File」オペレーションでスクリプトレットエラーが発生する	「/Library/Operations/File System/Windows」の下の「 Read File 」オペレーションは、RAS が利用できない場合でも正常に完了します。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C22972	10.x コンテンツパックでまだ ICONCLUDE_HOME 環境変数を使用しているコンテンツは、privateKeyFile 入力がこの変数に依存しなくなるように更新する必要があります	<p>パスが相対パスであったときに ICONCLUDE_HOME 環境変数を使用していたコンテンツは、現在は privateKeyFile 入力ではなく java.home の場所を使用します。このパスは、フローの実行元のアプリケーションに依存するようになりました。</p> <p>フローが起動された場所に応じて、パスは次の場所を基準とする相対パスになります。 studio (Studio の場合) central/bin (Central の場合) ras/bin (RAS の場合)</p> <p>この入力を使用するすべてのオペレーションとフローの説明も更新されています。</p>
QCCR8C24027	「Change Service Start Mode」オペレーションの startmode フィールドに日本語文字を使用するとオペレーションが失敗する。	<p>startmode フィールドに日本語文字が使用できません。</p> <p>この状況を明確にするために、「Change Service Start Mode」オペレーションの説明が更新されました。</p>
QCCR8C24069	「Solaris」フォルダーのオペレーションが米国の日付形式だけを使用する	「Solaris/Disk and File Operations」の下のすべてのフローは、ターゲットのオペレーティングシステムに合わせて正しい形式の日付を返すようになりました。
QCCR8C24070	「HP-UX」フォルダーのオペレーションが米国の日付形式だけを使用する	「HP-UX/OS and Server Operations」フォルダーの下のすべてのフローは、ターゲットのオペレーティングシステムに合わせて正しい形式の日付を返すようになりました。
QCCR8C24072	「FS Modified」オペレーションの Threshold 入力は、システムが日本語にローカライズされている場合場合でも、米国形式の日付だけを受け入れる。	<p>「/Operations/File System/Cross Platform」および「Operations/File System/Windows Only」の下の「FS modified」オペレーションの threshold 入力は、ほぼすべての既知の形式の日付を受け入れます。</p> <p>オペレーションの説明が更新され、その機能がより正確に表現されています。</p>

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C24074	「FS Create Temp File」の説明は、カスタムサフィックスを追加する際のファイル命名規則に関して誤解を招く	「Operations/File System/Windows Only」の下の「 FS Create Temp File 」オペレーションの説明が更新され、カスタムサフィックスを追加する際のファイル命名規則が明確に記述されました。
QCCR8C24076	「FS Rename」(Cross Platform) で、すでに存在するファイルが上書きされない	この問題は、 newName 入力と同じ名前のファイルが、名前を変更するファイルの場所にすでに存在する場合に起こっていました。
QCCR8C24081	「PowerShell」の「Get Date and Time」オペレーションは日本語環境で英語の結果を返す	「Library/Operations/PowerShell/Utility」の下の「 Get Date and Time 」オペレーションに、ロケールの言語と国を指定するための2つの新しい入力 localeLang と localeCountry が追加されました。
QCCR8C24084	パスワード入力に日本語文字が含まれる場合に「Create Local User」オペレーションが失敗する	<p>「Create Local User」オペレーションは、パスワードが次の規則を満たさなかった場合にエラーを発生していました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザーを作成する際に、そのユーザーのパスワードは、英小文字と英大文字と数字を含む必要があります。 • パスワードは任意の数のローカライズされた文字を含むことができます。
QCCR8C24269	「PowerShell/Networking」フォルダーのオペレーションは、「Configure Network Adapter」オペレーションに必要なインデックスを返すように更新する必要がある	<p>IPv6 をサポートするため、「Library/Operations/PowerShell/Networking」の下の「Configure Network Adapter」オペレーションが作成し直されました(以前の「Configure Network Adapter」オペレーションは非推奨になりました)。</p> <p>このオペレーションは、netsh interface ipv6 show interfaces コマンドから返された値を、interfaceIndex 入力の値として使用するようになりました。</p>
QCCR8C24305	日本語環境で、Windows の圧縮解除操作で作成されたファイル名とフォルダー名が正しくない	日本語環境で、Windows の圧縮解除操作から生じるすべてのファイル名とフォルダー名が正しくなりました。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C24461	「XSL Transformation」オペレーションの templateLocation フィールドの値として日本語の説明に示された例を使用すると、フローが失敗する	「Library/Utility Operations/XML Processing」の下の「 XSL Transformation 」オペレーションの templateLocation フィールドの値として、説明の例を使用した場合に、フローが正常に完了するようになりました。
QCCR8C24548	Base コンテンツパックの多くのオペレーションにオーバーライドグループの情報がない	Base コンテンツパックのすべてのオペレーションに オーバーライドグループ の情報が追加されました。たとえば、 <code>\${overrideJRAS}</code> 、 <code>\${overrideNRAS}</code> などです。
QCCR8C24574	「SSH/Shared Sessions」オペレーションは SSH チャネルを再使用できない	「Shared Sessions」フォルダーの下の「 SSH ShellLogon 」、「 SSH Shell 」、「 SSH Logoff 」の各オペレーションで、SSH コンテキストが保存されるようになりました。 すなわち、「 SSH Shell 」ステップで設定した変数を、次の「 SSH Shell 」ステップで読み取ることができます。
QCCR8C24599	「LDAP」および「Active Directory」フォルダー: useSSL=false の問題	オペレーションは、 useSSL 入力が false でも動作するようになりました。なお、「Active Directory」の Java オペレーション「 Create User 」と「 Reset Password 」は、LDAP プロトコルのみで動作します。このため、これらのオペレーションが動作するには、 useSSL 入力を true に設定する必要があります。
QCCR8C25070	「telnetOp @Actions」は、空白値の入力があると動作しない	「 telnetOp @Actions 」は、空白値の入力があっても正しく動作するようになりました。
QCCR8C25109	SSH オペレーションは、パスの解決に ICONCLUDE_HOME システム変数を使用する	SSH オペレーションを実行する際に、秘密キーが入力に指定された場合、その場所は、OO インストールフォルダー (Central から実行した場合は central/bin、Studio から実行した場合は studio) を基準として解決されるようになりました。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C25138	一部の「Active Directory」オペレーションの説明は、useSSL 入力フィールドの使用に関して正確でない	<p>「Operations/Active Directory」の下 のすべての「Active Directory」オペレーションの説明が、次のように更新されました。</p> <p>このオペレーションは、useSSL 入力を true に設定して使用することを推奨します。これは、Microsoft Active Directory で LDAP を介してユーザーのパスワードを操作する際に、SSL 通信が必須となるからです</p> <p>(詳細については、http://support.microsoft.com/kb/269190/を参照してください)。</p> <p>useSSL 入力を false に設定してこのオペレーションを使用した場合、オペレーションは失敗し、エラーメッセージが表示されます。このメッセージは通常、LDAP サーバーがサーバー定義の制限のために要求を処理できなかったことを示します。</p>

既知の問題

既知の問題の詳細については、「HP ソフトウェアサポートオンライン」を参照するか、HP サポート担当者まで直接お問い合わせください。

「/Library/Operations/PowerShell/PowerShell Script」オペレーションが JRAS 権限を使用する

ループバックアドレスが **host** として指定されており、オペレーションがサービス (RAS など) から実行された場合、指定された **username** の権限は更新されません。

「SSH/SharedSessions」オペレーションがマルチスレッド環境で動作しない (並列分岐)

「SSH/SharedSessions」は、オブジェクト **GlobalSessionObject** を使用します。このオブジェクトは、並列分岐またはマルチインスタンスのすべてのブランチで使用できます。ただし、このオブジェクトへのアクセスは同期されていません。このため、セッションが予期しないタイミングで削除/設定され、「**Could not find sessionId in the session context**」というエラーが発生します。

JDBC 統合に必要な MySQL JDBC コネクタがサードパーティで除外されている

JDBC 統合に必要な MySQL JDBC コネクタがサードパーティで除外されているため、クライアントで追加する必要があります。この存在しない依存関係を追加する標準の方法は、third-party-cp.jar をアーティファクトとともにデプロイすることです。しかし、OO 10.02 では、依存関係がプラグインの POM で宣言されていないと、これは効果がありません。

ただし、JDBC オペレーションはこの依存関係なしでも動作する必要があるため (他のデータベースのために)、この依存関係は宣言できません。

Netcool DB に対して SQL クエリを使用する場合、データベースの指定が強制されるべきではない

「/Library/Operations/Databases/JDBC/SQL Query」の下で「SQL Query」オペレーションには、データベース名の入力が必要です。値を指定すると、オペレーションは正常に完了しますが、Netcool ログにエラーが書き込まれます。

日本語環境で「Log Windows Event」オペレーションが失敗する

「Operations/Operating Systems/Windows/Event Logs」の下で「Log Windows Event」オペレーションが日本語オペレーティングシステムで失敗します。

ファイルシステム: マップされたドライブ上の有効なパスに対してすべてのオペレーションが失敗する

マップされたドライブ上のファイルに対してオペレーションを呼び出すと、オペレーションは失敗します。

HTTP クライアント - cacerts のデフォルトの場所

keystore/trustStore のデフォルトの場所は %JAVA_HOME%/jre/lib/security/cacerts と示されています。実際は <OO_Home>/java/lib/security/cacerts です。

Ping.Traceroute @Actions は "WMI" プロトコルで "WINDOWS" リモート OS に対して動作しない

「/Operations/Network」の下 の @Action 「**Ping (56c181bc-a763-435c-9561-4ba29d045c86)**」は、WMI プロトコルでリモート Windows オペレーティングシステムに対して動作しません。

WMI プロトコルで ping を実行するには、「Operations/Network」の下 の「**Ping with WMI**」フローが使用できます。

複数の実行から「PowerShell Script」を並列に使用すると例外が発生する

複数の実行から「PowerShell Script」を並列に使用すると、エラーが発生する場合があります。

回避策:

「PowerShell」オペレーションを呼び出す前に「**Acquire Lock**」オペレーションを実行し、後で「**Release Lock**」オペレーションを実行します。

WS-Management: サーバーとの HTTPS 接続のサポート

「WS-Management」フォルダーのオペレーションは、サーバーに対する HTTP 非暗号化接続だけをサポートします。これは、サーバーに対して情報を送受信する際にセキュリティ上の脆弱性となります。

Netcool データベースに対する SQL オペレーションでセミコロンが使用できない

「Operations/Databases/Microsoft SQL」の下 の「**SQL query**」オペレーションを Netcool データベースに対して使用した場合、どれかのフィールドのデータにセミコロンが含まれる場合以外は正しく動作します。オペレーションの区切り文字がパイプ文字にカスタマイズされた場合、結果は NULL のままです。同じオペレーションが、セミコロンを含まないデータを返す場合は正しく動作します。

「Change Service Status」で入力が requestedstatus フィールドで一時的に停止するとオペレーションが失敗する。

「Operations/Operating Systems/Windows/Services」の下 の「**Change Service Status**」は、**requestedstatus** フィールドの値が 'paused' の場合は失敗します。

サンプルフロー「Move Emails」がオブジェクトを正しくないメールボックスに配置する

「Operations/Exchange/Exchange 2010/Samples/Emails」の下 の標準のフロー「**Move Emails**」は、メールボックス所有者に属しないアカウントが選択された場合、選択されたメールボックスにオブジェクトを移動できません。

オペレーション「SNMPv1 Get」が失敗する

「Operations/SNMP/v1」の下の「SNMPv1 Get」オペレーションは、V1 SNMP エージェントだけをサポートするデバイスに対しては動作しません。常に「timed out」エラーが発生します。

Date Parser が大きなミリ秒値を正しく変換しない

「Date Parser」オペレーション (/Library/Utility Operations/Date and Time/Date Parser) は、2³² 以上の入力値を正しく変換しません。このため、出力日付の範囲が 12/7/1969 ~ 1/25/1970 に制限されます。

「Operating System Detector」で、ReturnResult の末尾に印刷不可能な文字が残される

「Operating System Detector」オペレーションによって ReturnResult の末尾に印刷不可能な文字が残されます。返された値を一致の種類 RegEx とパターン ".*" で「String Comparator」オペレーションに渡そうとすると、不一致エラーが発生します。

「/Library/Operations/File System/Windows Only/Excel/Get Cell」オペレーションを OLE オブジェクトを含む Excel ファイルに対して使用すると、失敗に終わる

「/Library/Operations/File System/Windows Only/Excel/Get Cell」オペレーションを使用して Excel シートを読み取るフローを実行する場合、Excel ファイルに OLE オブジェクト (チェックボックスなど) が含まれていると、オペレーションは失敗し、エラーメッセージが表示されます。

SFTP オペレーションが非パスワード認証に対して動作しない

SFTP オペレーションは非パスワード認証に対して動作しません。

パスフレーズレスキーを使用してリモートホストに認証しようとする、パスワード入力が空であるという理由で失敗します。

HTTP クライアントが接続を再利用しないため、パフォーマンスボトルネックが発生する

各 OO RAS オペレーションは、次の点を考慮して 1 つのユニットとして設計されています。

- 実行時にすべてのリソースが取得される
- オペレーションの完了時に、取得されたリソースは解放される

ただし、何千ものステップに対してフローが同じオペレーションを順次使用する場合、RAS オペレーションは、各ステップで必要なリソースを再利用せずに再作成します。

「Offset Time by」オペレーションが解析不能の日付のために失敗する

オペレーション「/Library/Utility Operations/Date and Time/Offset Time by」が解析不能の日付のためにエラーを発生します。

次の入力を空白に設定すると、オペレーションは正しく動作します。

localeLang =

localeCountry =

演算オペレーションが他の演算オペレーションで使用できない指数関数の結果を返す

「Utility Operations/Math and Comparison/Simple Evaluators」の下に「**Multiply**」オペレーションを実行すると、OO Studio デバッガーがフリーズし、次のエラーメッセージが表示されます。

実行中にエラーが発生しました。

RAS が日本語版の Windows 2008、VISTA、または Windows 7 上で設定されている場合、Local Ping は正しく動作しません。

日本語 Window 2008、VISTA、または Windows 7 オペレーティングシステムで RAS が定義されている場合、ローカル ping オペレーションは正しく動作しません。

回避策:

この問題は、コードを次のように編集することで修正できます。

「**Local Ping**」オペレーションによって作成される一時 bat ファイルの先頭に、chcp 437 を追加します。

chcp.com 437 によってコードページが OEM United States に設定されるため、ping コマンドの出力がローカライズされなくなります。

Excel の「Get Row Index by Condition」オペレーションで

「org.apache.poi.hssf.record.RecordFormatException:Unable to construct record instance.」が発生する。

「/Library/Operations/File System/Windows Only/Excel/」の下に「**Get Row Index by Condition**」オペレーションは、エラーメッセージが表示されて失敗し、Apache POI によって例外がスローされます。

SQL Server のバイナリデータが OO でバイナリとして返されない

SQL Server データベースでタイプが **binary(16)** の列のクエリを OO から実行した場合、結果がデータベースの内容と一致しません。

socketTimeout が HTTP クライアントベースのすべてのオペレーションに追加される

9.0 の「/Operations/HTTP Client」の下に「**Http Client Get**」オペレーションには、ドキュメントに記述されている新しい入力 **socketTimeout** があります。ただし、「/Operations/HTTP Client」の下に他の HTTP ベースのオペレーションには、**socketTimeout** に関する記述がありません。

「Remote Command Execution」の "Result" が約 976,000 バイトに切り詰められる

「Operations/Operating System/Windows」の下の「Remote Command Execution」オペレーションの結果データが約 976,000 バイトに切り詰められます。

「Validate XML Document」オペレーションを XML 名前空間をサポートするように変更

「Utility Operations/XML Processing」の下の「Validate XML Document」を使用する際に、XML ドキュメントに XML 名前空間タグ (xmlns) が含まれていると、エラーが発生します。同じ XML ファイルを他の XML 解析ツールでスキーマに対してチェックしても、エラーは発生しません。

「HTTP PUT」オペレーションが Content-Length ヘッダーがないために失敗する

「HTTP PUT」フローを使用する際に、HTTP 要求に対する "application/json" 形式の文字列の本文が送信されます。HTTP API サーバーは Content-Length ヘッダーが正しく設定されていることを予期していますが、これはクライアントによって自動的に設定されません。Content-Length ヘッダーが 8 ビットエンコードされた本文のバイト長に設定された場合、Content-Length ヘッダーがすでに設定されているというエラーが発生します。

Apache POI ライブラリを利用可能な最新の安定バージョンにアップグレードする必要がある

コンテンツパックに付属する Apache POI バージョンには、バグから生じる問題がいくつかあります。

回避策: Apache POI の新しいバージョン (バージョン 3.8) にアップグレードします。

「Http Client」の trustAllRoots のデフォルト値が 'true' である

「Http Client」オペレーションを HTTPS で使用する場合、trustAllRoots 入力を false に設定して、証明書を発行した証明書機関のチェックを有効にすることが推奨されます。

これらのオペレーションの説明ではデフォルト値が false であると記述されていますが、実際には指定が必要です。

CP15 および ACDC でホスト名またはユーザー名にローカライズされた文字 (すべての言語) を使用すると、フローまたはオペレーションが失敗する

ホスト名またはユーザー名 フィールドにローカライズされた文字 (英語以外のすべての言語) を使用すると、フローまたはオペレーションが失敗します。

IPv6 の制限

[IPv6][WMI] - 「Java」フォルダーの「WMI」オペレーションを IPv6 アドレスを使用して実行できない

「Java」フォルダーの「WMI」オペレーションを実行すると、IPv6 アドレスを使用している場合に失敗します。これはサードパーティの問題 (j-Interop) によるものです。

同じオペレーションを IPv4 アドレスで実行すると成功します。

次の Base コンテンツパックフローは「**Operations/WMI/Java**」に依存するため、IPv6 では動作しません。

- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Processes」の下 の「**Get Processes By Name**」
- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Processes」の下 の「**Get Process PID**」
- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Processes」の下 の「**Get Windows Processes**」
- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Processes」の下 の「**Get Process Counters**」
- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Processes」の下 の「**Get Task List**」
- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Samples/」の下 の「**WMI Query**」

「/Operations/Remote File Transfer/WebDAV」の下 の「**WebDAV**」オペレーションは、サードパーティの問題 (Jakarta Slide、Commons HttpClient) のために IPv6 で動作しません

「/Operations/Powershell/Network」の下 の「**Configure Network Adapter**」オペレーションは、Windows Server 2012/Windows 8 より前の Windows バージョンでは IPv6 インタフェースを設定できません。

「/Operations/Operating Systems」の下 の「**HP-UX**」オペレーティングシステムは、IPv6 で検証されていません。

「/Operations/Operating Systems」の下 の「**AIX**」オペレーティングシステムは、IPv6 で検証されていません。

「/Operations/Remote Command Execution」の下 の「**Remote Command**」オペレーションの ROSH (Remote Opsware Shell) および GlobalShell (Opsware Global Shell) プロトコルは IPv6 では検証されていません。これらのプロトコルは HP Server Automation の製品と統合されており、これらの製品はまだ IPv6 で検証されていません。

「Operations/Remote Command Execution/Remote Command」の **rexec** プロトコルは、rexec サーバー (rexecd daemon) が IPv6 接続をサポートしないため、IPv6 をサポートしません。

非推奨のオペレーションは IPv6 では検証されていません。

制限

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C24078	「Create Local Group」フローで英数字以外の文字を使用すると、フローは成功するが、例外が発生してアカウントは作成されない。	「Library/Operations/PowerShell/Utility」の下の「 Create Local Group 」フローは、英数字以外の文字を使用した場合でも正常に終了するようになりました。

